

＝ 普及 情 報 ＝

No. 17

令和6年3月6日

東部農林水産振興センター出雲事務所農業部

標 題	宍道湖西岸地区における水稲低コスト技術及び新品種の導入 ～持続可能な米づくりを目指して～
-----	---

(ダイジェスト)

宍道湖西岸の国営ほ場整備では、受益面積456haが整備される予定となっています。ほ場の大区画化が進むなかで、より効率的な作業が可能となるような低コスト技術が導入・拡大され、また、R6年産においては品質低下が顕著な「コシヒカリ」からの転換のために、新品種である「つきあかり」などが試作されることになっています。

出雲市の宍道湖西岸地区では、国営緊急農地再編整備事業が採択され、平成30年度から工事が開始されています。

同地区内の集落営農法人では、R3年度まで水稲における低コスト技術はあまり導入されていませんでした。そのため農業部では実証ほなどを設けるとともに、情報提供や勉強会を行い、低コスト技術の普及拡大に努めてきました。

その結果、同地区内でR4年度に一集落営農法人が高密度播種栽培を導入し、今年度は同法人が直播栽培とドローンを、一新規就農者が安価なRTK基準局と自動操舵システムを導入しました。高密度播種栽培と直播栽培においては、今後、経営体数及び技術導入面積が拡大する予定となっています。

また、今年度の高温による「コシヒカリ」の品質低下を受け、R6年度には新品種の「つきあかり」や、宍道湖西岸地区ではあまり栽培されていない「つや姫」が試作栽培される予定となっています。

次年度以降はさらに水稲の低コスト技術の導入や品種転換を加速させるとともに、生産者がしっかりと収量・利益を確保できるように支援していきます。

表1 主な導入技術・品種

	R4年度	R5年度	R6年度
導入技術・品種	高密度播種栽培	直播栽培 ドローン 自動操舵システム	つきあかり つや姫

